

東久留米市立南中学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く力」を週に1回行っているのに、長文を書くことに対する苦手意識はあまりない。 ・班討議の際に積極的な生徒と消極的な生徒に分かれてしまい、話し合いに差が出る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成を効果的に考えながら、文章の柱立てを下書きさせ、結論を分かりやすく導けるようにする。 ・「書く力」の中からテーマを選び、4人班で討議を行い、聞く力や話す力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意見文のスピーチを行い、自身の主張が的確に伝わるような文章を書く。(2学期1回) ○最初の意見と話し合い後の自身の意見を書かせ、80%以上の生徒が考えを深められるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史に関わる用語を別の用語と間違えて覚えている生徒が見られる。 ・産業等の資料をもとに、日本の諸地域の特色を理解できない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用語を年表や模式図に表わす学習活動を多く取り入れる。 ・農業や工業等の資料を読み取る学習活動を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年表、図で表わす作業を取り入れた授業を実施する。(2学期2回以上) ○ワークシートや白地図を提出させ、80%以上の生徒ができるようにする。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式の計算を理解していない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し小テストを実施し定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○9割以上の生徒が80%以上解けるまで指導していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストにおける思考力を問う文章問題の正解率が低い。 ・質量保存の法則や定比例の法則など、計算問題に対して苦手意識を持っている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で話し合い活動の時間を設け、思考力を問う問題に慣れるようにする。 ・計算を伴う分野では、計算練習を中心とした授業を設け、計算練習をする機会を多く与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中に取り組んだ問題プリントを回収し、評価する。80%以上の生徒ができるようにする。 ○小テストを行い、その結果を評価する。80%の生徒ができるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽から感じ取ったことを言葉にして話したり、文章にしたりする力(作文力)に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問やワークシートを工夫するとともに、ペアやグループでの対話や、学級全体で学習活動を共有しながら授業を組み立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現活動に思いや意図をもち、すすんで音楽の良さを味わい、楽しむことができる生徒50%以上を目指す。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉をもとに考えたアイデアを、絵などのイメージに変換するとき苦勞する生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4人班に1人ずつ、絵を描くのが得意な生徒を配置し、班活動で絵を使ったアイデア出しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい題材に取り組ませるときに実施する。(12月～1月頃)
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定することのできる生徒は多いが、自ら練習方法を工夫することは苦手な生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習方法を選択できる活動を意識的に設定し、正しい選択ができるように声かけを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の課題を把握し、80%以上の生徒が課題を改善できるように指導する。
技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ製作でのはんだ付け作業は、ほとんどの生徒が興味をもつが、初めて経験する生徒が多く、技能は十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミスしやすいポイントをあらかじめ分かりやすく説明する。また練習基板を活用して、うまくはんだ付けが出来るよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○達成感を味わえるよう、作業が遅い生徒に対しては放課後に時間を設定するなどし、未完成のまま終える生徒をゼロにする。

家庭	・衣生活での「布を用いた物の製作」への取組の中で、得意意識の生徒と苦手意識の生徒の差が大きく、進度において差が出てしまう。	・毎時の各自の目標を明確にさせ、しっかりと取り組む意識をもたせる。	○各自生活の中での課題を見つけレポート提出。期限内作品完成の生徒80%以上。
外国語	・単語を発音することはできるが、書くことはスペルミスをする生徒が多くみられる。	・単語小テストやスペルクイズの実施を通して定着させる。音とスペルの規則についての問題を出す。	○学期の中間で、スペリングテストを行い、全体の50%が単語の問題で8割を点数できるようにする。
	・文章を書くときに、語順が文法のルールに則っていない生徒が多い。	・様々な例文や間違った解答を提示して、文法のルールに自ら気付くように指導する。	●学期の真ん中でテストを行い、作文の問題で全体の50%が6割以上を点数できる。
科特別の徳教	・発問に対して、周りの意見を踏まえた自らの考えを表現することが苦手な生徒がいる。	・ワークシートの活用などを通して、相手の意見を踏まえた自分の考えを表現する機会を多くする。	◎ワークシートなどで評価する。5割以上の生徒が相手の意見を踏まえた自分の考えを表現できる。
の総合的な学習	・仲間と積極的に話し合い協力し合う姿勢が見られる。	・総合という時間の中で、何のために行うのか目的意識をもたせ、全員から意見を募るようにする。	◎全員の生徒が、まとめや発表ができるようにする。
	・一部の生徒は、他の生徒に頼りきりになり、話し合いに消極的な部分もある。	・新聞作成や発表では、見る人、聞く人を意識したまとめになるよう、助言する。	◎全員に自己評価および鑑賞した評価に取り組ませる。